※令和４年度以降入学生用

学校番号	219

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（学）日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	山川出版 詳説日本史図録						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日本史演習では、歴史総合で取り扱った近現代の歴史の日本史部分をより深く学習し、定着させていくことを狙います。また、日本史探究で取り扱う部分を含めた文化・経済・地域などのテーマ史を扱うことで、時代の流れや変化を理解し、総合的に歴史を見ていく，考えていく力をつけていきたいと考えています。
・電子黒板とプリントを使って、基本的な歴史事象を説明し、考察するために必要な知識を提示します。説明をそのまま書き写すだけでなく、自分で思いついたポイントや疑問点などもメモしておくようにしてください。字だけでなく、イラスト等をつかってもよいでしょう。
・歴史的事象についてまとめ、考察したものを提出・発表してもらいます。期日までに形にして必ず提出してください。教員からのアドバイスや、学友の発表も参考にし、自分が考えたことを人に伝える練習もしていきましょう。

2　学習の到達目標

・時代の画期となる事象、及びその影響や関連性を理解する。
・史料，グラフ，図等を読み取って、それらの情報を整理し、歴史的事象との関連を推理し、考察できる力を身につける。
・歴史的事象に対する自分の考えをまとめ、説明できるようになる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・日本の歴史の流れを、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。 ・資料を読み解き、それらが歴史的事象のどのような特徴を表しているかを理解することができる。	・歴史的諸事象の因果関係を整理し、流れを説明することができている。 ・時代的条件や他国のできごととのつながり等、複合的な視点を持って、歴史を考えることができている。	・日本の歴史を多面的に学ぼうとする意欲を持ち、知識を身につけるため、積極的に学習に取り組んでいる。 ・自分の考察をより伝わりやすい形で示すため、複数の史料にあたり、また教員や学友の意見を取り入れるなどの工夫している。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	近・現代	産業革命	a: 明治政府の経済・産業政策、外国技術の導入, 産業革命の展開、交通・通信手段の革新等の相互関係や流れを理解している。 ・グラフや表から変化を読み取ることができている。 b:グラフや表から読み取れる変化を論理立てて説明することができている。 ・明治政府が行った経済・産業政策の目的と結果を、他国との関係や貿易の内容，国内の社会状況，国民生活の変化と関連させて考察することができている。 ｃ：学習内容や考察をまとめ、伝えるために工夫を行っている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート
		恐慌の時代	a: 戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を、背景にある関東大震災・金解禁・世界恐慌などのできごとや政府の対応との関連を含めて、理解できている。 b: 恐慌の原因や結果、政府の対応策を順序立てて説明することができる。 c: 恐慌に対する他国の対応作にも関心を持ち、積極的に情報収集し、比較検討を試みようとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート

※令和４年度以降入学生用

		軍部の台頭	a：恐慌とブロック経済が日独伊で国家主義の台頭をまねいた因果関係や、軍部の政治的台頭と社会主義運動の弾圧，協調外交の挫折の過程を理解している。 b:山東出兵から国際連盟の脱退まで、日本軍部・米英・中国国民政府それぞれの視点から見ると事態はどのように見えるのか，異なる立場から同じ歴史事象を見て、その意味づけの違いを比較・考察することができている。 ｃ：歴史の流れをつかみ取り、多面的な視野から考察しようとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート
		15 年戦争	a:日中戦争の勃発から太平洋戦争への突入、そして敗戦に至る過程で行われた諸統制の内容や、それに伴う国民生活の変化を理解している。 b:国民生活の変化をグラフ・表から読み取り、諸統制の影響を考察することができる。 ｃ：日本が他国に与えた惨禍について、根拠が確かな史料の入手に努め、平和で民主的な国際社会を実現するために必要な事柄を考えようとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート
2	近・現代	占領と改革	a:占領政策及び民主化政策の目的とそれに伴う諸改革について、内容や経過、国民生活に与えた変化を理解している。 ｂ：占領政策・民主化政策以前と以後の日本社会の変化を、憲法や民法の条文，諸制度等を比較・参照して、説明することができる。 ｃ：ニュース動画や新聞紙面など当時の社会状況を伝えるさまざまな史料に関心を持ち、制度の変化やそれが日本人に与えた影響をより深く理解しようとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート

※令和４年度以降入学生用

		冷戦の開始と講和	a:ヨーロッパや東アジア情勢の変化が占領政策を転換させたこと、日本の政治や経済，国民生活に与えた影響を理解している。 ｂ：当時の国論を二分した全面講和論と片面講和論について、考え方の違いや、あり得た未来の違い、諸外国との関係などを踏まえて多面的に考察できている。 ｃ：冷戦がもたらした当時の国際情勢や歴史的事象についても関心を持ち、知ろうとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート
		琉球の歴史	a：琉球の歴史の歩み、日本本州や他国との関係について、それをもたらした条件や時代経過を踏まえながら、理解できている。 ・琉球征服，琉球処分，沖縄返還などの重要な歴史的事象が理解できている。 ｂ：琉球の歴史の概観を、日本列島の歴史と比較しながら、説明できる。 ・琉球征服，琉球処分，沖縄返還などの重要な歴史的事象を、前後の過程を含めて説明できる。 ｃ：琉球の産業・社会構造・文化等さまざまなことがらに興味・関心を持って、琉球の歴史を理解しようとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート

※令和４年度以降入学生用

		蝦夷地の歴史	a: 蝦夷地の歴史の歩み、日本本州や他国との関係について、それをもたらした条件や時代経過を踏まえながら、理解できている。 ・アイヌ民族，松前藩，ポーツマス条約等、蝦夷地の歴史を学ぶ上で重要な用語が理解できている。 ｂ：琉球の歴史の概観を、本州の歴史と関連づけて説明することができる。 ・アイヌ民族，松前藩，ポーツマス条約等の重要な用語について、簡潔かつポイントをおさえた説明ができる。 ｃ：蝦夷地の産業・社会構造・文化等さまざまなことがらに興味・関心を持って、蝦夷地の歴史を理解しようとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート
3		仏教史	a:仏教伝来～鎮護国家思想の高まり～密教導入～浄土信仰～民衆救済志向～信徒集団による一揆～江戸幕府による宗教統制～廃仏毀釈運動に至る流れや時代ごとの特徴を理解している。 b:どのような時代背景から、特徴的な仏教思想が出てきたのか、考えることができている。 ・書物に残された思想や美術品作品の特徴を説明することができる。 ｃ:仏教史の流れや時代ごとの差異を、その時代を生きた人々が何を願み何を願ったのかと結びつけて、より深く学ぼうとしている。	小テスト 定期テスト	グループワーク レポート 定期テスト	グループワーク レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度